

# SNS は大学を変えるのか

岡部洋一  
放送大学長

Y. Okabe

# 0. アウトライン

- ◆ 1. 大学の劣化
- ◆ 2. OER
- ◆ 3. 双方向学習
- ◆ 4. SNS
- ◆ 5. 結論

# 1. 大学の劣化

- ◆ 学生の勉強不足・ 厳しい入試の結果
- ◆ 卒業生の学力不足・ 卒業率維持のため  
(下落すると、文科省からの評価ダウン)
- ◆ 企業から見た学生の評価の下落
- ◆ 就職活動のため益々学力低下を起こす
- ◆ 悪い positive feedback がかかりつつある
- ◆ さらにコミュニケーション能力不足の学生

# 劣化は止められるか

- ◆ 入試を無くす（入口は緩く）
  - 人気大学ではこれが大変
- ◆ 試験は厳格に（出口は厳しく）
  - 一時的な人気低下に耐えられるか
- ◆ 教育の双方向性を確保' → これにより各大学の個性が決まってくる
- ◆ コミュニケーションの場を少しでも多く確保
  - ネット越しも必要となる

# 放送大学の意味

- ◆ Open Univ. of Japan'→入学は完全公開、卒業は厳格'→マスプロ教育
- ◆ ほぼ人口比に比例し、相対的に高齢者多し
  - 平均40～50歳、最大100歳前後
  - 世界に冠たるLLL(生涯学習)大学
- ◆ キャンパスがない
  - 学習センターのみ
  - コミュニケーション不足: 先生、友達
  - その他の問題: 課外活動、図書館

## 2. OER

- ◆ 2.a. OER とは
- ◆ 2.b. Business になるのか
- ◆ 2.c. 放送による OER
- ◆ 2.d. ネットによる OER
- ◆ 2.e. 教科書の電子化
- ◆ 2.f. OER の課題と解決策

## 2.a. OER とは

- ◆ もう一つの Open: OER (Open Educational Resources)
  - MIT OpenCourseWare: 講義の公開
  - Open Learning Initiative (CMU): 教科書素材の公開
  - OCW、iUniv、iTunes U などより公開
- ◆ 英語圏の大学は積極的
- ◆ OER を利用し、自前の講義を持たない大学

## 2.b. Business になるのか

- ◆ 作るのには多資源必要 vs 使うのはタダ
- ◆ 宣伝効果• Business Model としては崩壊
- ◆ 国、あるいは地球レベルの経済性
- ◆ 社会貢献、国家戦略• 公共的投資
- ◆ OER 利用大学との負担分担



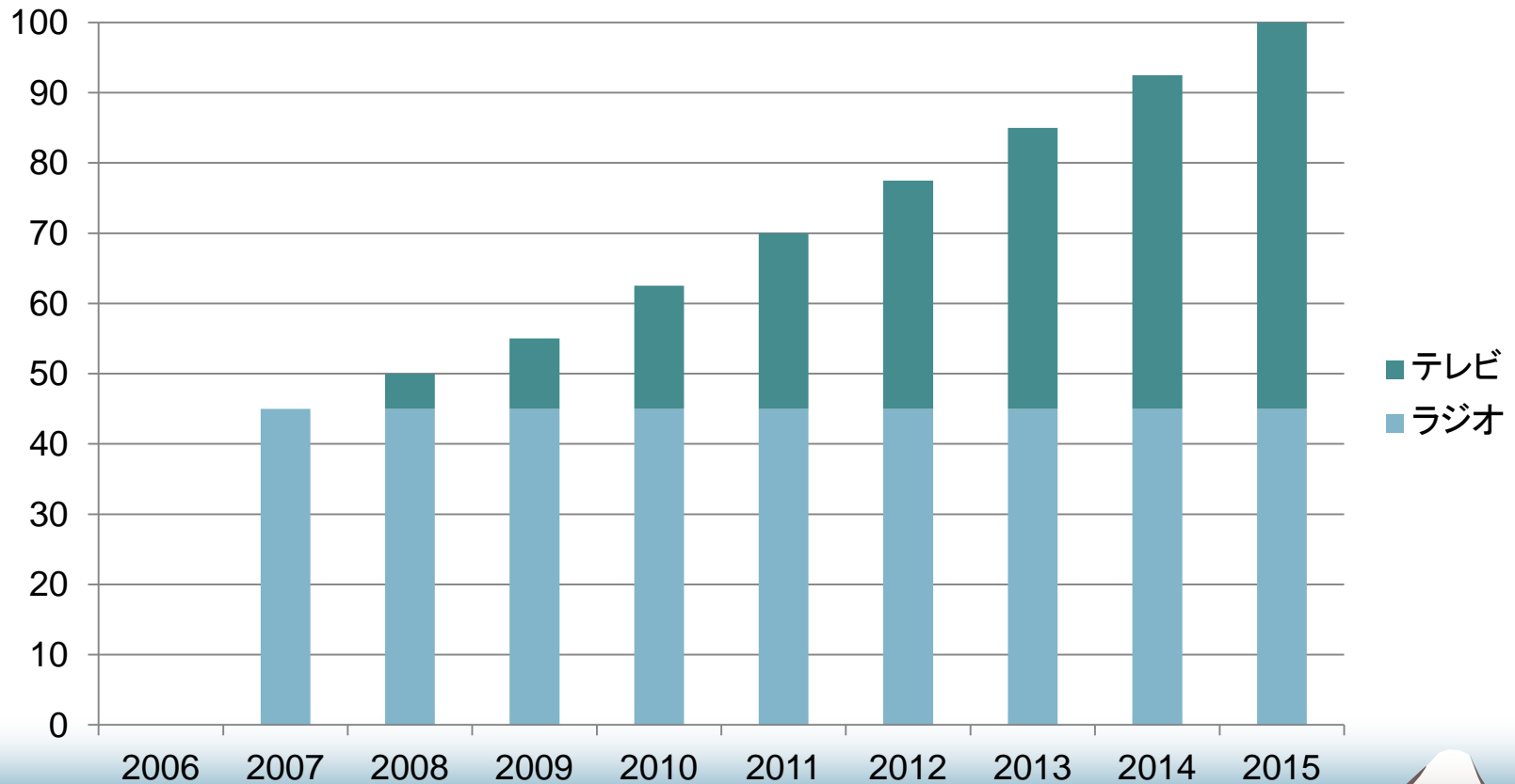
## 2.c. 放送による OER

- ◆ 放送大学モデル
- ◆ 作成に多大な経費必要
- ◆ ニュースなど、放送でしか認可されない素材を利用可
- ◆ 国境に制限される
  - Anywhere, Anytime とは言えない

## 2.d. ネットによる OER

- ◆ 作成は比較的容易で低価格
  - 放送大学では放送教材を変換している
- ◆ ニュースなどの素材は利用不可
- ◆ 全面公開だと権利処理が大問題' → 学生のみに公開
- ◆ 国境に制限されない
  - Anywhere, Anytime

# ネット配信予定(放送大学)



## 2.e. 教科書の電子化

- ◆ 放送大学: 電子化は比較的容易のはず
  - 印刷教材(教科書)作成の義務化
  - 同一の出版社(放送大学教育振興会)
- ◆ 出版社のビジネスモデルがまだできない
  - 2013年度配信科目より、印刷教材の一部を事前に学生にネット公開

## 2.f. 課題と解決策

- ◆ **日本**: Creative Commons 化できない知財権利処理の経費と手間
  - ストリーミング
  - 携帯型情報端末
  - 博物館などへの教育への公開依頼をすべき
- ◆ 一般大学: 権利処理のことをよく知らない
- ◆ 放送大学: 制作側が放送系で、ネット配信のことをよく知らない

# 3. 双方向学習

- ◆ 3.a. 双方向学習とは
- ◆ 3.b. 双方向学習の現状
- ◆ 3.c. 双方向学習の課題と解決策

## 3.a. 双方向学習とは

- ◆ 質問のネット化'→email、電子掲示板
- ◆ ドリル形式の補助教材
  - 通信指導問題のネット化(放送大学)
  - 廉価な補助教材の提供(UPO)
- ◆ Webinar、遠隔講義(同期)、共同参加型

## 3.b. 双方向学習の現状 (放送大学の現状)

- ◆ 通信指導問題
  - 2011年度より、すべての選択科目をネット化
- ◆ 電子掲示板
  - 教員の希望に合わせて設置
- ◆ Webinar
  - 現在すでに希望の教員は使用中
- ◆ 遠隔講義、共同参加型
  - 北海道、沖縄などを中心に実施



## 3.c. 双方向学習の課題と解決策

- ◆ 掲示板: 任意の場合、学生に書込みの気運を作るのが難しい(先生も)
  - ROM
  - 強制力?
  - 若手 TA 導入(学生の気運を上げ、先生の代理)
- ◆ 掲示板: 炎上対策必要
  - 特に文系科目
  - 何らかの第三者が介入し、削除などを可とする

# 4. SNS

- ◆ 4.a. Virtual Community の必要性
- ◆ 4.b. Twitter
- ◆ 4.c. Facebook
- ◆ 4.d. SNS の特徴
- ◆ 4.e. SNS の問題点
- ◆ 4.f. SNS の今後
- ◆ 4.g. SNS は必要か

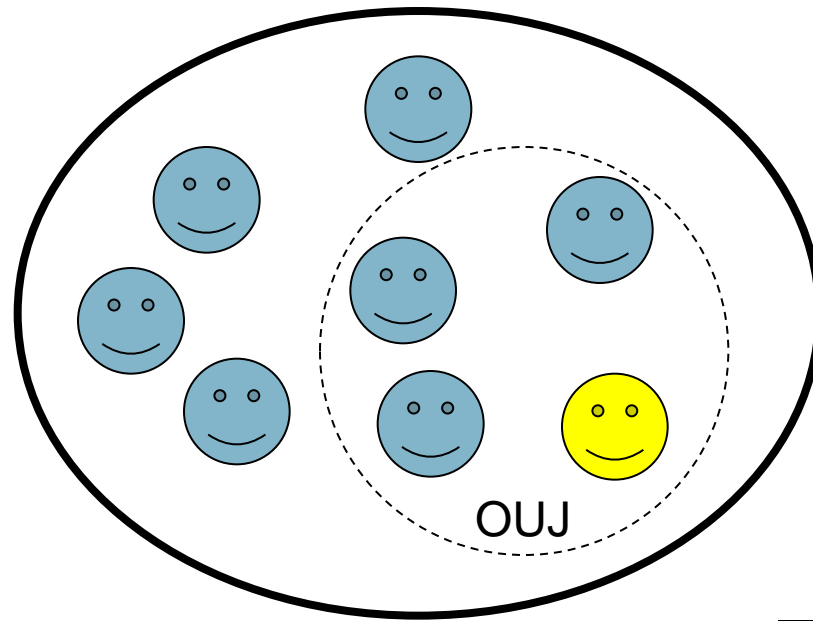
## 4.a. Virtual Community の必要性

- ◆ 放送大学(ODL): Virtual Campus 必要
- ◆ 一般大学: ネット好きな若者対応
- ◆ LMS であると、テストや質疑が中心、大学の関与大のため、Community を構成しづらい
- ◆ 無償 SNS が使いやすい

## 4.b. Twitter

- ◆ 虚名多い'→やや無責任
- ◆ 140文字以内の短文
- ◆ 秘匿性低い
- ◆ 即時性が高い
- ◆ 多人数の井戸端会議





\_\_obake



Y. Okabe

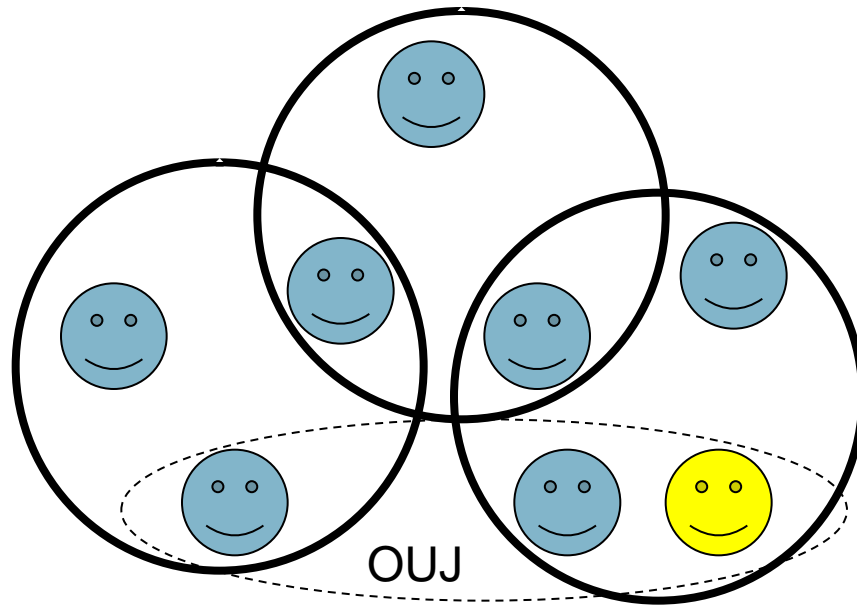
## 4.c. Facebook

- ◆ 実名登録が原則'→責任ある発言
- ◆ 会員制'→秘匿性が高い
- ◆ 友人探し容易
- ◆ グループが作成しやすい
- ◆ 投稿しても直ぐに見えないことがある
- ◆ サークル活動の形成: 同好者、議論









グループ: 放送大学

## 4.d. SNS の特徴

- ◆ SNS によって全く使い勝手が異なる
  - Twitter:
    - 放送大学に関心のある人の意見把握容易
    - 回答容易、宣伝機能、ニュース機能あり
    - 本名を使わないため攻撃が発生しやすい
  - Facebook:
    - 本名を使うため真面目な議論が多い
    - いくつかのサークルなどが直ぐにできる
    - ニュース機能低い

## 4.e. SNS の問題点

- ◆ 炎上
  - Twitter で起きやすい
- ◆ 荒らし
  - FB の「放送大学グループ」で起きたことがある
- ◆ 対策
  - 投稿者を追跡でき、ログが見られる SNS、要するに自前のシステム' → Moodle, Sakai など

## 4.f. SNS の今後

- ◆ 同じ SNS でも Twitter, Facebook, LinkedIn, Google+ など、使い道が異なるため、用途に合わせたシステムの採用
- ◆ 炎上防止やセキュリティ維持のためには、管理権限を持てること、ログが採れることなどのため、自前の SNS が望ましい
- ◆ 大学でのツールとしての可能性は高い

## 4.g. SNS は必要か

- ◆ 不可欠になる可能性大
- ◆ 教育側の効果
  - 学生の不満が溜まりづらい
  - 先の計画が見える
  - 教員側も学生を掌握できる
- ◆ 事務側の効果（武雄市などでも実証済）
  - 対応が早くなる
  - 責任意識が芽生える

資料請求

オープンキャンパス

出願情報

お問い合わせ

TUJ Room



イベント



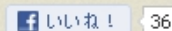
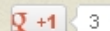
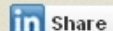
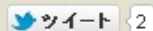
30周年記念



2012年卒業式



このページを共有する:



現在のページ: 大学トップ

お問い合わせ

テンブル大学ジャパンキャンパス  
〒106-0047 東京都港区南麻布2-8-12

Tel 0120-86-1026  
(フリーダイヤル・携帯可)

E-mail [tujinfo@tuj.temple.edu](mailto:tujinfo@tuj.temple.edu)

- ▶ お問い合わせ
- ▶ 交通アクセス
- ▶ 採用情報 英語
- ▶ TUJへのご支援

TUJ Everywhere

- 学部入学関連
- ニュースとお知らせ
- TUJ公式チャンネル
- 卒業生コミュニティ
- mixi
- テンブルこまれ話

▶ TUJソーシャルメディア公式アカウント

オープンキャンパス・説明会

- ▶ 大学学部課程
- ▶ MBA
- ▶ ロースクール
- ▶ アカデミック・イングリッシュ・プログラム
- ▶ 生涯教育プログラム

プログラム

- ▶ 大学学部課程
- ▶ TESOL(修士・博士号)
- ▶ MBA
- ▶ ロースクール
- ▶ アカデミック・イングリッシュ・プログラム
- ▶ 生涯教育プログラム
- ▶ 企業内教育プログラム

## 5. むすび

- ◆ 1. 技術、システムの問題はほぼなくなった
  - ◆ eLearning などが普及すればまた必要
- ◆ 2. 携帯端末の普及効果の行方
- ◆ 3. 教員、学生への利用促進
- ◆ 4. 人、経費の投入
- ◆ 5. 相変わらず、権利処理問題
- ◆ 6. SNS: 必要になるだろう

# AAOU 2012

- ◆ アジア公開大学連合大会
- ◆ 日時: 2012年10月16-18日
- ◆ 場所: 幕張メッセ
- ◆ 主催: 放送大学